



美ちやんの幼稚園観

後藤ちとせ

美いちやんは今年とつて五歳になる愛らし盛りの嬢ちやんです。お年よりは少しませた其れは、お懶なお兒で可愛い理屈をおつしやつては御両親を笑はせ女中衆を困らせるとはお祖母様の御自慢話。此程久ぶりて御目にかいと例の涼しい眼元、愛らしい口もとに笑みを堪へ「伯母ちやまよく御出で下さいました」と紅葉の様なお手をついて早速の御挨拶！フサ／＼した振分髪（右の髪に一寸結んだりホンの蝶も此撫子を特に摹ふて舞ひ寄つたかと思はれます、扱お正月よりは近きわたり）の幼稚園に御通ひとの事でお自分のお室といふ奥の六疊で此日のと日本はつた美いちやんの幼稚園観！お子供衆の御意見ながら感じ入つたる箇々の少なからぬに歸宅後取あへず筆執つて御報知申上ぐる事に致しました文責お可愛らしい其お言葉を拙き筆に寫したる責は此ちとせにあること、お許しを願ひます。

美いちやんの好きな松井先生。

「伯母ちやま！美いちやんでつか？美いちやんはお正月から幼稚

園にさがりまらしたの、その始めの日は梅やに附いて行つて貰ひまらしたの」

梅やとは美ちやんのお氣に入りの附添女中、年は十七脊は低い方が美しく肥つた丸ぼちやの桃割れ姿。眼のクル／＼した笑醫の深み。笑い顔の妙に愛らしい所が美いちやんの御氣に召した所以です今一寸九段中坂の佐藤まで幼稚園恩物の一つなる積木とやらを貰ひに出たとの事。

「だけれども」

と美いちやんはえら左様に力んだ調子で

「だけれどお友達のお皆ちやまがお附女中などは「送り迎へをさせる丈で遊びの間はお家に歸らして置く兒が豪いのだと云はれまらしたの、そしてネ伯母ちやま！美いちやんの組の先生は大いそい優さちい方で美ちやんが始めて参りました日からお母ちやまと同じ様に可愛がつて下だつさいまつから直ぐモ」送り迎へに致ちましたよ、

「送り迎へ」とは幼稚園の通用語で附添人をして單に幼兒等が須上の安全を計るため使はれ幼兒在園中は歸宅し居らしむる事を云ふと見えます後に「梅や」によく聞きますと此の幼稚園は本郷區湯島五丁目とやらむ御茶の水橋附近に建てられた新築の幼稚園で園長澤田鶴子女史の私立に係る近頃名高い良園だと云ふ事です。何れ其中好機會を得次第同園に參觀を願ひ女史が御意見も伺ひまして更に御報告申上ぐる事に致しませう、

扱て此送り迎への方法は成程又繁き市街の幼稚園では附添人使用法として至極適切な方法と思はれます。何故かと申しますに幼

兒在園中即ち子供衆が幼稚園に居らるゝ間は全く家庭の事を忘れ只嘗て友達のお友達及び先生と餘念なく遊ぶ様にし嬉しい時にも悲しい時にも面白い時にも走りたい時話したい時等どんな時にも先生をたより子供衆を力にして保母及び幼児等の善なる感化を可成多く受けさせる事に致しませうには畢竟幼稚園保育の影響を最も多く興へやうと致しますには是非附添人を子供の傍に置いといては可くましますまい何故ならばお子供衆と申しても人間社會の上下といふ事を既に既に承知して居られますから先生にお頼みするよりは全じ事でも附添人に言ひ附け、命令的にやらせる方が無難な所からヤレ水を飲みたいやれお手々が冷たい、鼻汁が出たお小用にと用ある毎に附添人の傍に走り折角先生が「御子供衆に自治の真習を養ふと思はれた結構な御意見も之がために妨げられお子供衆が器用不器用扱ては種々なる性癖等も附添人の御世話やきのため被り隠されて先生の御目に移らぬ不利益もある事で何の道附添人を早く離してしまふ事が保育上善少なく利益の多い次第と考へられます而して之ば唯お子供衆が危険を餘所にせる幼稚園内に居らるゝ時に限る事で蠱々たる電車、鱗々たる馬車の行き交ひ自轉車人力車荷車と可弱い幼児方の登園に途上の危険物の非常に多い所では是非附添人をして送り迎へせしめ其安全を計らなければなりません一昨々年かも今暫しにて小学校に移るべき七才の少女兒が十五六才の丁稚に送られ幼稚園より歸宅の途上疾風の如く走り來れる電車の車輪に悲惨なる終りを告げし哀れなる音づれか聞いた事がありました附添人が附いて居てさへ喧嘩煩忙なる都會に於ては斯る過失もある事故該澤田幼稚園に於て此方法をとら

れたのは至極適切の次第と思はれます、而して遠方より通ふ幼児の附添人の爲には特に質素なる一室を設け此等の人々をして裁縫編物等に在園中は靜肅にして扣へ置かしむる由ですが朝並ひに晝食後の保育室内の掃除及び保育材料の準備等には當番をきめて此等附添人を使用する習慣なさいです、又時々先生が受持の子供の附添人を呼び集めて左の如き心得を話し聞せ一年に二回位は事の序でに體格検査をも行つてやるとば誠に有難い事行届たお處置と感服、

附添人心得

- 一、附添人はく保育者の命令に従ひて進退し在園中は獵りに幼兒に干渉せざる事
- 一、附添人は保育者より命ぜられたる用事なき時は靜かに附添人入室に控へ居るべきこと
- 二、園内規則を服膺して幼兒取扱上保育者の主義と衝突すべき行爲なかるべき事
- 一、園内の幼兒全体を一様に親切丁寧に取扱ふべき事
- 一、附添人は幼稚園と家庭との連絡交情を計るに最も便宜の位置に立つものなるが故に自己の便利安樂等を思ふ利己心を棄却し只嘗て附添ふ幼兒の保育上の好果を得ん事を慮り附添人たるの責任を全うすべき事
- 一、附添人相互の間は各々善意を以て交際し各々幼兒の便宜幸福を計り合ふ事につとめよ

斯る幼稚園の事ですから教育なき附添人にまさか斯んな六ヶ敷文句を奪取らせた譯ではありませぬ例の梅やが夜に入つてから話し

て呉れた事柄の大様を私が筆にまかせて書いて見た次第ですが當幼稚園の保姆方は誠に親切なお様子で附添室には備附の卓上に簡單なる下女讀本や家庭に關する新聞雜誌等に乗せて置かれて毎週木土の兩日には一時間位つゞ彼等の質問も聞いてやられ又有益な世上の事實話最近な修身談等をもなすつて下さるとの事扱々慈悲深い方々と承る私までが感謝の涙ホロリく

是はとんでもない悪見陳述に陥りましてお主人公美いちやんの御話を忘れました美いちやんは入園翌日から送り迎へした事が御自慢なので人様におくれなとる事がきらい！大のきらいと云はない計りの小さい勝氣の顔に嬉しさうな笑みを浮べ此度は其がお母ちやまと同じに可愛がるといふを聞くもゆかしき保姆の君の御禮さに移らるゝのです

「ア、先生の御名前ですか？松井先生おつしるの、それはくゝい、先生でつよ、伯母ちやまのところがちー姉ちやん位の御年、

ちー姉ちやんとは今年二十二歳になる私の妹分、オリブの袴召して、るの、かんかですか？、前髪少し廂にちて何時でも奇麗に束髪にてピカ／＼するお星様みたようなヒン一ツ此處んところにつあしてゐるの昨日元祿の奇麗な襦袢の袖きて居らちやいまちたよ

まあオリブ元祿と扱ては廂よと流行語はなほ小兒社會にも流れ込むかと驚きもし可笑くもある、——と美いちやんの觀察はただ中々細かなので

アノネ伯母ちやま！松井先生は赤顔色がお白くてそれでも頼の

ところはホーの桃色ですわ、奇麗な方！幼稚園では一番に奇麗な先生だつてきのふ中の組の京子ちやんがおつしや、いましたよ、梅やがネ「何故松井先生はお嫁つあまに行かないでせう」つて云ひましたら内山さんのお附添が「松井先生の旦那様は、何、日露戦争でなくなりましたのでつよ」つて云ひましたよ、旦那ちやまつて指輪下さる方でせうね伯母ちやま？

思はず笑き出すこちらの顔を怪訝さうに打まもつてなぞ笑ふの？、それでもおうちのお母さまの金の指輪はお父様が洋行からお歸りの時下さつたのですよそしてお父様のところを梅ややなんかは旦那様つていひまつよ、

美いちやんの三段論法お例巧さには何時もくゞ降参の外なしといふ譯で今更笑つたのがすまない様な氣がいたしました凡て子供衆が眞面目に考へた事を大人が思慮なしに笑ひ去る事は誠によるしくない非教育的の處置かと此時一寸思ひつきました

あゝそつて御座いますつよ餘りお例巧なものですから嬉しくつてと云ひまざらすと、無邪氣な美ちやんは疑念の雲を拂て

「おうちのお父様は凱旋して金鶏動車載いたのに松井先生旦那つあまはなぜおなくなりになつたかとわたくち時々考へて、先生どんなに悲しいかしらぬと思ひますよ、そしてこの指にはめて居なつある金の指輪をじーと見ては松井先生のお顔をのそくと先生は何んたか悲しいなそれでも嬉しい様なお顔して「どうなすつて？」と何時も美ちやんのお頭撫て下さいまつよ、伯母ちやま先生悲しいでせう、美ちやんも祖父ちやまのおなくなりになつた時、お母様のお泣きになる膝のところでは何だか悲

しくつて泣きましたつて、今更思ひ出してモ一歸らぬなつかしいお祖父ちやまのお駕眞の右手の壁に掲げられたるをじつと見つめる

「でも先生は何時もくにくくして其れはくお優しいの美ちやん松井先生のお怒りになつたお顔を知りませんよ、朝にも早くいらつすつて、お遊びの時にても何時も一緒に遊んで下さるし、お假の時に、玉ちやんや八重ちやんみたぬうにおこぼしなつある方にも親切に世話しておやりなつあるから美ちやんは一番松井先生が好きです皆様も一番松井先生が好きで上の組の方も下の組の方も皆松井先生がすきです、あたち、何時迄も何時迄も先生と遊びたいの小學校へ行つても高等女學校に行つても松井先生に教はりたいの、先生のまはりには何時も澤山の子供が集つて嬉しさうに遊んで居まつよ、そして先生はあたち共が澤山に集つて先生の傍でさわいで居る時が一番嬉しさうにして居られますの、屹度子伯母ちやま私達か松井先生を好くだけ先生が私共を可愛がりなつあるのだと美ちやん何時でも思ひまつよ誰だつて自分を可愛がつて下つある方がすきでせう、そして自分を好いて呉れる人は可愛らちい思ひまつからね、

斯程までに美ちやんに好かれる、美ちやんのみならず幼児等全体から好かれる松井先生とやむの人柄の尊さ懐かしさ抑も如何なる此の君の性格か最も多く幼児等を引き附けるのかと思ひますに實に此の「子供好き」「子供が可愛い」「子供に接するのが何より嬉しい様だ」と云ふ女子の本性、天帝の特に女子の精靈に誇

き給ひたる貴き愛情の種子の遺憾なく繁り榮えたる此君の慈愛の心に基く事と私までが引き附けらるゝ心地して熱心に承りて居りますと美ちやんは更に先生の長所美點を數へ出して何時やむかとも見えぬのです

三十八

美ちやんね、故松井先生はあんなに子供がお好きだから思ふて何時も不思議になるのです。アノ角の建具屋のお婆さんなどは毎日瀧ちやんや吉藏さんを叱つて居るでせう美ちやんあのお婆さんは屹度子供が嫌いだらうと思ふのです、うちの梅もお母ちやまもお伯母ちやまだつて皆子供は好きでせう、ですから女の人の中にも子供の好きな人と嫌ひな人とあかと思ふのです、美ちやんは等はこんなに皆様に可愛がられて居るのに吉藏さんや瀧ちやんは毎日泣かない日はないの、氣の毒ですから建具屋のお婆さんも早く子供が好きになればよいと思ひます。伯母ちやま、アノお婆様かやさしくしてあげられないでせうか美ちやんの家は神田駿ヶ臺鈴木町の北側に建てられたる日本風なる大家門内廣き花壇の中央芝園に達する砂礫道の兩側には横の並木ゆかしく春夏秋冬花絶えぬ其花壇には珍鳥愛禽の種類をも飼養しあるとの事、美ちやんの御室からは北庭の小柵を超して茗溪の流れ女高師範順天堂其他の和洋様々なる大建物を緑樹の中に望むのです角と建具屋とは何處？吉藏さんや瀧ちやんとは如何なる兒なるらむ又其の子嫌ひのお婆さんとは？

「それですね、お伯母ちやまも考へて見ますけれども美ちやんが一つ奮つて角のお婆さんとお友達になつてなほしてあげてはどうでせう」

「そんな事出来まちえんけれども、何時かあの婆ちやまとお友達になりたいと何時も〜思ふのです、何故ならあのお婆さまは瀧ちやんやなんか叱りまつけけれども美いちやんが幼稚園から歸つて来る時には何時もニコ〜して「お郎の嬢ちやんで御座いますかなんて可愛いんだが」なんて梅やによくいまつから美ちやんが御わびをしてあげたらアノ兒達も叱らなくなるかと思ひまつよ、ですけれども獨りで行くの始のうち、つこしきまりがわるいから何時にしたら宜しいかと思つて居まつ、伯母ちやま何時か一緒に待つて下さるといへんだけど」

「え、美いちやんの事なら何時でも待つてあげますよ。してれアノ松井先生の方ね伯母ちやま參觀にあがつて御目にかゝりたのですけれど誰にでもよく御話として下さいませうか」同情深き美いちやんは角の建具屋が氣になつてか頼りに氣の毒さうな面持をして小顔左に傾けて考へ込んで居られましたが松井先生との一聲に忽ち嬉しげな様子に變り唐縮緬の赤座布團より一寸膝手にすべらした兩の足を引込ませ小さい軀を一ゆすりして居すまぬ直すもモ一心は松井先生の腰に抱かれたやう、

「エ、伯母ちやまがお出でになつたら先生とどんなに喜ぶか知れまつえんよ、私明日先生にそう申しませう伯母ちやまが御出でになるつて、先生はモ一誰にでも親切でつよ美いちやんの組下の組下下の組の兒ばかりを大事になさるのでありますの、中の組の森田先生は時々お庭に御出にならぬ時かありませう其時中ノ組の兒が轉んだり喧嘩をすつたりしますと松井先生が何時もよくして上げなさいませう一昨日にも次郎さんと重ちやんと

駈けて来て衝突つかつて次郎さんは顔のところを痛を重ちやんはお鼻から血の出ました時にも松井先生が小使室につれて行つて町寧に世話して次郎ちやんには冷い手拭でよく冷して重ちやんにはお鼻洗つて黄色い薬つけた綿つめてあげましたの、森田先生はお病氣だから時々お休み なりますから中ノ組の方は淋〜さうにして元氣なくして居る時がありますよ私森田先生は善い先生なだけけれども軀がお弱いから外にも御出にならないで其代りに坂田先生がお出になるのだらうと思ひまつ、坂田先生はまだ小さいから鏡がつかない事があるから中ノ組の方はよく惡戯をなすつたり喧嘩をなすつたり時々怪我などもなすつたりするのだと思ひますのよ、其れに誰だつて自分の組の先生がお出でになりませんと淋しい鬼ごつことだつて砂遊びしたつて先生が一緒にして〜さらなくては面白くありませんから遠惡戯がしたくありませんわ、惡戯でないと思つてした事でも可くないつてよく叱れる事もありますからね矢張松井先生みた様にお丈夫な先生の組の兒は一番仕合せだと森田先生がお休な時には何時でもソ一思ひますの、そしてネ軀の丈夫な先生は何時も元氣よくしてニコ〜して居て傍に行つても面白う御座いますけれどもお弱い先生は時々五月蠅さうになさいませうから何だか親しくなれないで先生の居なさらない所で遊びたくなるだらうと思ふのですの、でも中ノ組の方はよく先生と遊ばずにお山の蔭などに遊んで居なさるのですの、

松井先生はモ一何時も丈夫で居なさいまつからお室のお稽古の時にニコ〜して外のお遊びの時にも鬼事もして下さるし花

瓊のお掃除も、事も軍ごつこにも砂遊びにも何時も入つて下さるので砂遊びの時には美いちやん何時でも先生のお務の掃の砂拂つてあげますと「有難う」おつしやいますから美いちやんも何かして戴いた時には誰にでも女中にでも「有難う」いふ事に致しましたの先生は何でも教へて下さる方ですから美いちやん何でも先生の真似かしたいのですの、どう云ふ譯ですがお母様の真似でも梅やの真似でも看護婦のまねでも電車のまねでも真似をするのは極く面白くて何でも見るとすぐ真似たくなりますが其うちで先生の真似をしたり先生のなさる通りに色々な事するのが一番嬉しい様ですの、

熱心に聞いて居りますうち膝下に置いてあつた茶も早冷たくなつたのを果て何時にござたらう午後の三時に出て来たのだがと思つて居りますと瓦斯をつけに出て來られたお母様「オヤまあ美いちやんはまだ幼稚園の御話ですかモ」

美いちやんは近頃すつかり松井先生崇拜でねてもさめても先生の御噂さばかり。あまり先生！先生！申しますから父兄會の折一寸伺ひましたら誠にマア優しい先生で曠が好くのも無理はないと思はれましたまだお若い様だがどうして中々有望なお方な様で御座いましたよ

母君もまた此先先に信用しきつて居るらしい、間もなく間の襖がゐいて女中が運ぶ食膳大したお馳走と思ひますと宜へ今日は二月四日節分とやらむ年越しとやらむ！悪い所へ來合せたと思ひましたが如才のない常家妻君の響應ぶりに美いちやんを御主人公なる

此六疊で結構なる御手料理に主客三人談笑の間に食を終へて歸宅したるは電車の往き來の賑はしき増す夕ぐれ方、芝罫に送り出られた美いちやんの振分け髪の後姿！撫肩縮緬の羽織着流した上品なる母君の束髪姿が目にも止まつてなりませぬ、歸り途にも何となく思ひ浮ばる、松井氏とやらむ何れ其うちお目にかかり其が巧みな御保育振りをお話したい申しませう (未完)



▲動物園の趣味と子供眼 十歳位の男女の諸ふ動物の趣味の論は八九分通りは動物である、鳥、馬、蝶、蟹、猿などがよく其無邪氣な見方で語られて居る、そして其論は、動物はどこか子供の氣をひく物である、雀や、雁、つくづくべしなど、形か鳴聲か又は其運動か、何か一つ特別な處があつて子供の物好き心をひくものである、子供の面白味をひくものは殆ど無いたして殆んど動物に限られてゐる、草木を畫たものは殆ど無いといふと、子供は自分を上置として自分に一番近い物に注意を向け、萬事自分に引附ける傾を持つてゐる、こゝから子供の何でも人にして見たがる癖が起てくる、例へば鳥勘三郎といふやうなこと、植物に關した子供論は殆どない位である(日本園藝雜誌)

▲人の血液の重量 中肉中骨の普通人の血液は何程の重量である歟と云ふに對して獨逸醫學界一般には其人間の体重の十三分の一に當るもの學說が信ぜられて居たのだ、然るに近き頃伯林のホフマン博士が熱心に研究した結果右の學說を打破るべき新學說を生み出した、それは普通男子の血量五キログラムを有したるに對して五十歳の男子の血量百廿三ポンドの人は五千三百廿グラム、六グラム、七グラム、八グラムの男子の血量百廿八ポンドの人は五千五百五十六グラムの血量あるを確め得たので即ち獨逸醫學界の十三分の一説は誤りに歸し此血量の十一分の一の強説が一般に信ぜらるゝやうになつたと云ふ事である